

OLYMPUS

Your Vision, Our Future

2018年3月期 第3四半期 連結決算概況と通期見通し

2018年2月9日
オリンパス株式会社
取締役副社長執行役員 CFO
竹内 康雄

免責事項

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

IFRS任意適用について

- 当社グループは2018年3月期第1四半期連結累計期間の連結財務諸表より、国際財務報告基準（“IFRS”）を任意適用しています。
- 比較分析のため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度の連結財務諸表につきましてもIFRSに準拠して表示しています。

第3四半期実績

- 売上高：医療事業が牽引。3Q累計は前年同期比+8%、四半期では同+11%を達成
- 医療事業：第3四半期として過去最高の売上高を更新。主力の消化器内視鏡が回復
- 利益：為替の円安を追い風に、全利益項目で増益を達成

通期業績見通し

- 連結全体では売上高・営業利益・税引前利益いずれも、従来の年間見通しに変更なし
- 当期利益は、米国税制改革に伴う法人所得税の減少を見込み、上方修正

- 2018年3月期 第3四半期決算の主なポイント
- 第3四半期の実績
- 為替の円安に加えて、医療事業が好調に推移し、3Q累計、四半期のいずれも増収、増益
- 医療事業では主力の消化器内視鏡分野が回復をみせ、3分野すべてにおいて、この四半期では2桁成長を達成し、全社業績を牽引
- 通期見通し
- 売上高、営業利益ともに、従来の年間見通しに変更なし
- 医療事業は、第4四半期も、この好調トレンドが継続する見通し
- 当期利益は、米国税制改革に伴う法人所得税の減少を見込み、前回見通しから30億円、上方修正

2018年3月期 第3四半期 連結業績および事業概況

2018年3月期 第3四半期実績 ①連結業績概況

① 売上高：医療事業が牽引し、円ベース、為替影響調整後のいずれも増収を達成

② 利益：円安を追い風に各利益項目で増益。当期利益は金融収支の改善や税金費用の減少等により2桁の増益

(単位：億円)	3Q累計実績 (4-12月)				3Q実績 (10-12月)			
	2017年 3月期	2018年 3月期	前年同期比	為替影響 調整後	2017年 3月期	2018年 3月期	前年 同期比	為替影響 調整後
売上高	5,318	5,721	+8%	+3%	1,831	2,026	+11%	+5%
売上総利益 (売上総利益率)	3,466 (65.2%)	3,729 (65.2%)	+8%	+2%	1,190 (65.0%)	1,312 (64.7%)	+10%	+2%
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	2,835 (53.3%)	3,102 (54.2%)	+9%	+6%	959 (52.4%)	1,067 (52.7%)	+11%	+7%
その他の収益および費用等	▲71	▲29	-	-	▲26	▲20	-	-
営業利益 (営業利益率)	560 (10.5%)	598 (10.5%)	+7%	▲8%	205 (11.2%)	224 (11.1%)	+9%	▲18%
税引前利益 (税引前利益率)	489 (9.2%)	557 (9.7%)	+14%		178 (9.7%)	205 (10.1%)	+15%	
当期利益* (当期利益率)	395 (7.4%)	480 (8.4%)	+22%		159 (8.7%)	182 (9.0%)	+15%	
円/USドル	107円	112円			109円	113円		
円/Euro	118円	129円			118円	133円		

6 2018/2/9 No data copy / No data transfer permitted

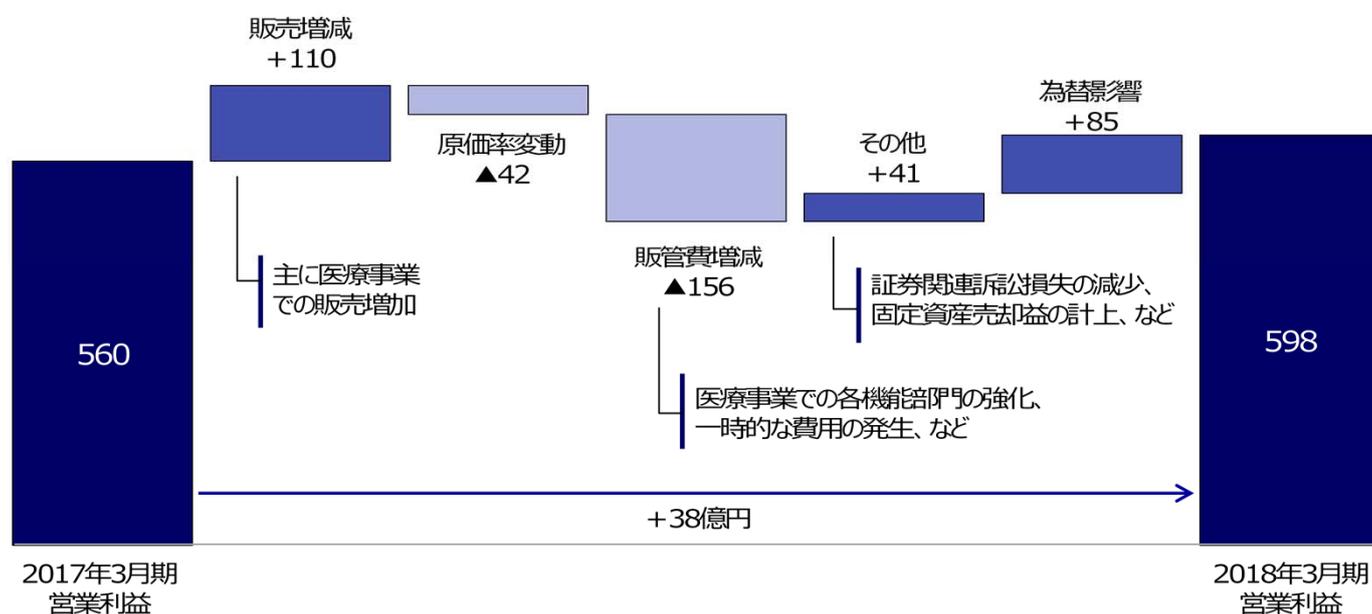
* 親会社の所有者に帰属する当期利益

OLYMPUS

- 2018年3月期 第3四半期 連結実績
- 第3四半期累計の連結売上高は、前年同期比8%増収の5,721億円
- 営業利益は同7%増益の598億円
- 為替の円安もあり、医療事業が好調に推移し、増収増益に寄与
- 税引前利益は、医療事業による増益に加えて、金融収支の改善などにより、前年同期比14%増の557億円
- 当期利益は、米国税制改革に伴い、法人所得税が約30億円減少し、前年同期比22%増の480億円

2018年3月期 第3四半期実績 ①連結営業利益増減要因

第3四半期累計実績 (4-12月)



7 2018/2/9 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- 営業利益の主な増減要因
- 販売増減：医療事業において内視鏡、外科、処置具の全分野で増収となった結果、販売増加により110億円プラスに寄与
- 原価率変動：医療事業におけるプロダクトミックスの影響により悪化し、42億円のマイナス要因
- 販管費増減：主に医療事業において、各機能部門の強化などにより人員が増加し、156億円マイナスに影響。これら人件費の増加に加えて、上期に発生したM&Aや法務関連の対応費用などの一時費用も、販管費が増加する要因
- その他：主に証券訴訟の和解等に伴う損失が前期から減少したことや、海外現地法人のオフィス移転等に伴う土地建物の売却益が発生したことなどにより、41億円プラスに寄与
- 為替影響：85億円プラスに寄与

2018年3月期 第3四半期実績 ②セグメント別概況

- 医療：第3四半期として過去最高の売上高を更新し、全社の業績を牽引
- 科学：上期より順調な成長トレンド・営業増益が継続し、10%増収
- 映像：3Q累計ではミラレスの増収により、黒字を確保

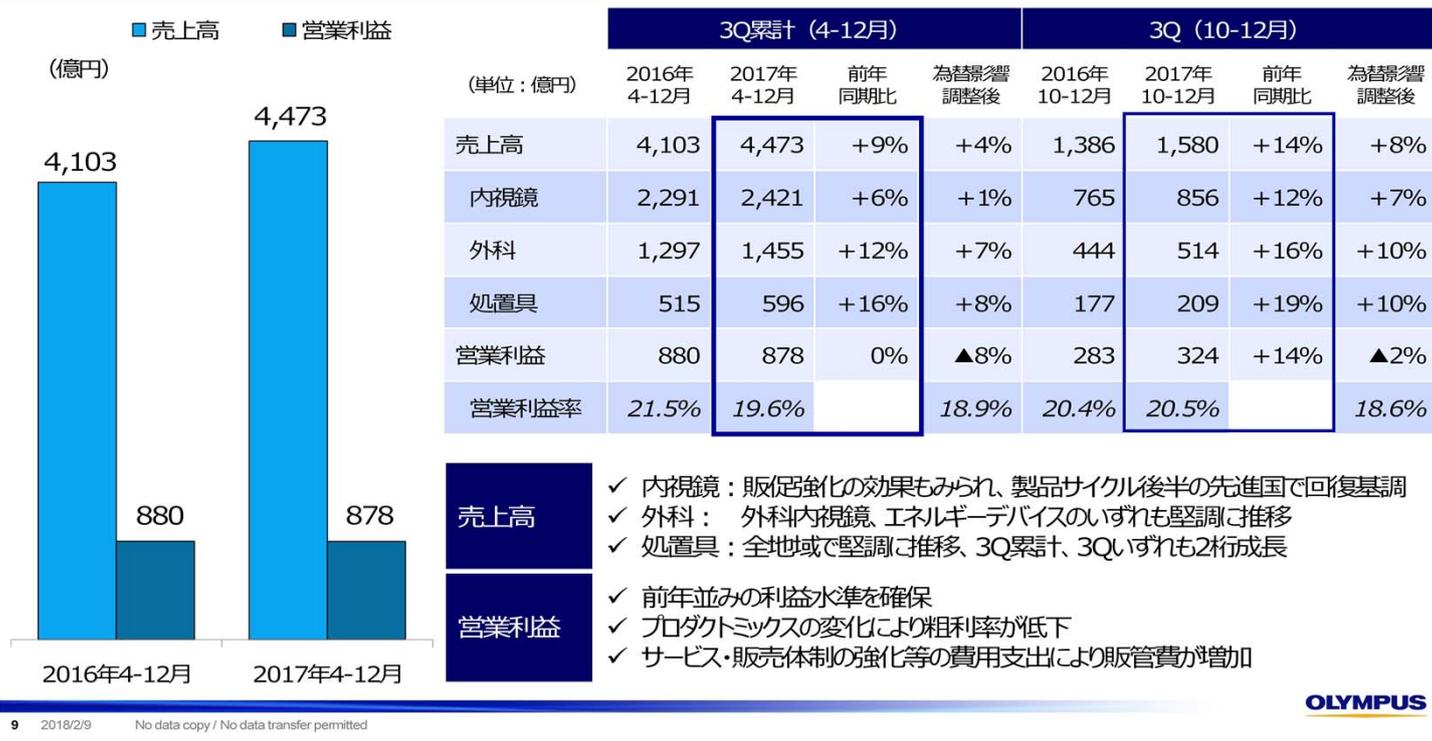
(単位：億円)		2017年3月期	3Q累計実績 (4-12月)			2017年3月期	3Q実績 (10-12月)		
			2018年3月期	前年同期比	為替影響調整後		2018年3月期	前年同期比	為替影響調整後
医療	売上高	4,103	4,473	+9%	+4%	1,386	1,580	+14%	+8%
	営業利益	880	878	0%	▲8%	283	324	+14%	▲2%
科学	売上高	635	700	+10%	+5%	231	254	+10%	+4%
	営業利益	19	35	+88%	+33%	21	23	+9%	▲28%
映像	売上高	468	473	+1%	▲3%	183	167	▲8%	▲14%
	営業利益	8	15	+77%	+38%	22	▲1	▲23億円	▲26億円
その他	売上高	112	75	▲33%	▲34%	31	25	▲20%	▲21%
	営業利益	7	▲28	▲36億円	▲35億円	30	▲16	▲46億円	▲46億円
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-	-	-	-
	営業利益	▲355	▲302	+54億円	+52億円	▲150	▲105	+45億円	+45億円
連結合計	売上高	5,318	5,721	+8%	+3%	1,831	2,026	+11%	+5%
	営業利益	560	598	+7%	▲8%	205	224	+9%	▲18%

OLYMPUS

8 2018/2/9 No data copy / No data transfer permitted

- セグメント別の概況
- 医療事業は、第3四半期として過去最高の売上高を計上し、前年同期比9%増収の4,473億円と、全社の業績を牽引
- 営業利益は、前年と同水準
- 科学事業は、上期より順調な成長トレンドが継続しており、売上高は10%増収
- 営業利益は同88%増益と大幅増益
- 映像事業は、売上高は前年並
- 営業利益は15億円の営業黒字を確保
- その他事業は、前期に子会社を売却した影響等もあり、減収減益
- 全社・消去は、訴訟関連損失の改善等もあり、損失幅が縮小

2018年3月期 第3四半期実績 ③医療事業



● 医療事業

● 売上高：前年同期比9%増の4,473億円

● 内視鏡、外科、処置具の全分野で好調に推移しており、特に、外科と処置具は上期に引き続き、2桁の成長が継続

● この3ヶ月間では、内視鏡、外科、処置具の全分野で2桁成長となっており、成長がさらに加速

● 営業利益：前年並となる878億円

● 営業利益率：前年同期比で約2ポイント減となる19.6%

● 主に、プロダクトミックスが変化したことに伴う粗利率の低下に加え、欧米での修理・サービス部門の体制強化など、人件費の増加、上期に発生したM&Aや法務関連の対応費用など、一時的な販管費の増加が営業利益率の低下要因

2018年3月期 第3四半期実績 ③医療事業

分野	地域	現地通貨別成長率				分界別の状況
		2018年3月期				
		1Q	2Q	3Q	3Q累計	
消化器内視鏡	日本	▲6%	+1%	+2%	▲1%	<ul style="list-style-type: none"> 日欧：セールスポモーションを強化し販売増加に寄与 北米：保守サービスを含めた販売施策の強化に加え、12月より新たなセールsprogramを開始 アジア・オセアニア：特に好調な中国が牽引
	北米	▲1%	▲4%	+2%	▲1%	
	欧州	▲6%	▲8%	+2%	▲4%	
	豪亜	+13%	+4%	+21%	+12%	
	全地域	0%	▲2%	+7%	+1%	
外科	日本	+3%	+6%	+14%	+7%	<ul style="list-style-type: none"> 日欧：「VISERA ELITE II」の新製品効果および、エネルギーデバイスが好調に推移し、大幅成長 北米：主力製品がサイクル後半となる中、4K外科内視鏡を中心に販売増加。IDN*の取り組み強化により、新規契約を獲得。 <p style="text-align: right;">*IDN(Integrated Delivery Network)：総合医療ネットワーク</p>
	北米	▲1%	0%	+4%	+1%	
	欧州	+6%	+14%	+16%	+12%	
	豪亜	+18%	+16%	+5%	+13%	
	全地域	+4%	+7%	+10%	+7%	
処置具	日本	+8%	+9%	+9%	+9%	<ul style="list-style-type: none"> 全地域でERCP*（胆膵領域：特にガイドワイヤ）の製品が堅調 特に中国を中心とした、アジア・オセアニアが好調 <p style="text-align: right;">*ERCP：内視鏡的逆行性胆膵管造影</p>
	北米	+5%	+2%	+9%	+5%	
	欧州	▲1%	+3%	+5%	+2%	
	豪亜	+23%	+20%	+15%	+19%	
	全地域	+7%	+8%	+10%	+8%	

10 2018/2/9 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

● 為替を除く実質ベースの成長率

● 消化器内視鏡分野：

- 上期は先進国では軒並みマイナス成長となっていたものの、第3四半期では先進国でも軒並みプラス成長に転じるなど、大きく回復
- 日本ではセールスポモーションの強化が販売増加に寄与
- 北米では、保守サービスを含めた販売施策の強化に加えて、12月より新たなセールsprogramを開始
- アジア・オセアニアでは中国が牽引し、第3四半期は21%成長と好調に推移

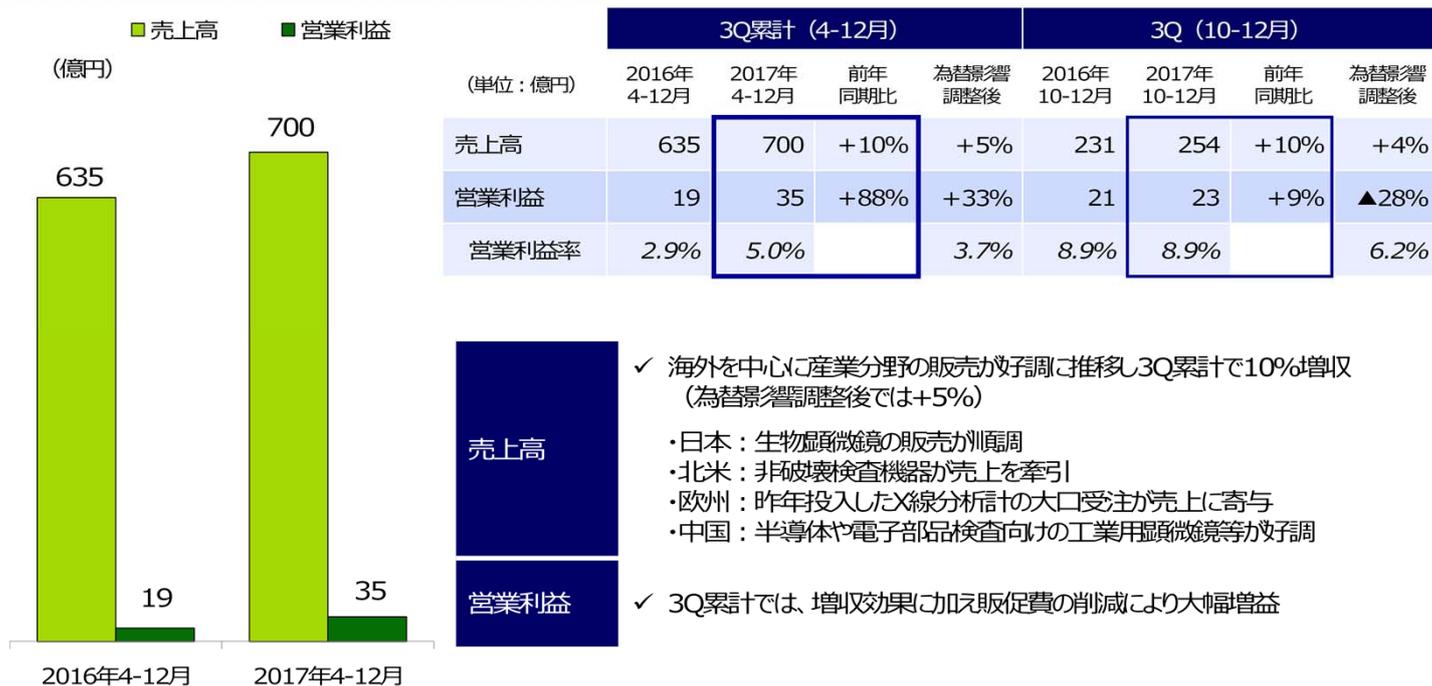
● 外科分野：

- 日本と欧州において、新製品「ビセラ・エリート・ツー」および、エネルギーデバイスのサンダービートが好調に推移し、2桁成長
- 北米は、外科も主力製品の製品サイクルが後半となる中で、4K外科内視鏡を中心に順調に推移し、エネルギーデバイスの落ち込みを吸収して、前年並みの成長を確保

● 処置具分野：

- 各地域で市場特性にあった製品が販売を伸ばし、引き続き全地域で堅調に推移

2018年3月期 第3四半期実績 ④科学事業



11 2018/2/9 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

● 科学事業

● 売上高：前年同期比10%増収の700億円

● 営業利益：同88%増益の35億円

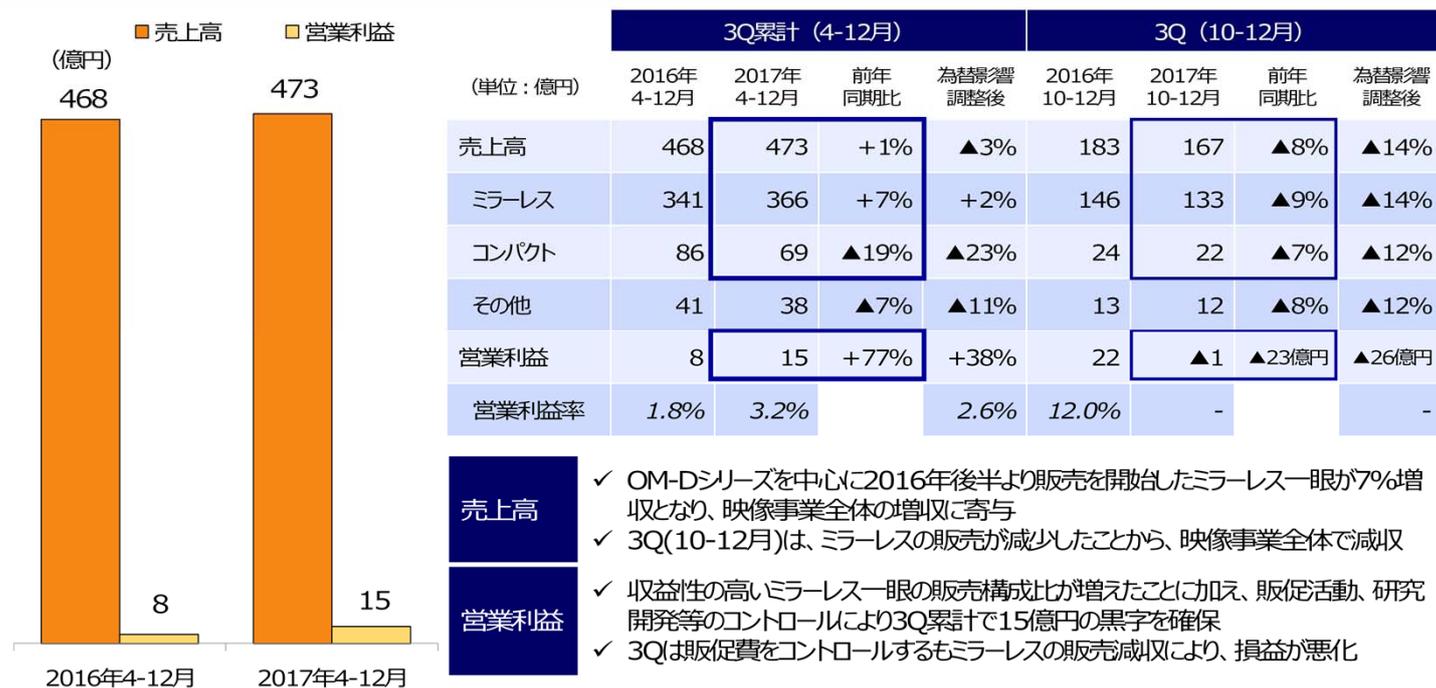
● 昨年投入した新製品が寄与したことなどから、海外を中心に産業分野の販売が好調に推移

● 特に、非破壊検査機器および、半導体や電子部品検査向けの工業用顕微鏡が売上を牽引

● 営業利益は、増収効果に加え、販促費の削減などにより大幅増益

● その結果、営業利益率は前年同期比で2ポイント改善し、収益性が大きく改善

2018年3月期 第3四半期実績 ⑤映像事業



12 2018/2/9 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

● 映像事業

● 売上高：前年同期並の473億円

● 営業利益は上期に続き黒字を確保し、前年同期比約2倍となる、15億円の営業黒字

● コンパクトカメラは前年同期比19%の減収となる一方で、ミラーレス一眼は、2016年後半に発売したE-M1Mark II など、OM-Dシリーズを中心に販売が増加し、7%増収の366億円

● 収益性の高いミラーレス一眼やレンズ等の増収効果に加えて、販促活動、研究開発等を適切にコントロールしたことにより、収益性も向上

● 10-12月期の第3四半期では、1億円の営業赤字

● 販促費のコントロールを継続しているものの、ミラーレス一眼の販売減少により、営業利益が減少したことが主な要因

財政状態計算書

- 資本 : 当期利益480億円の計上により利益剰余金が増加
- 自己資本比率 : 利益剰余金の増加および有利子負債を圧縮したことで45.6%に

(単位: 億円)	2017年 3月末	2017年 12月末	増減額		2017年 3月末	2017年 12月末	増減額
流動資産	5,057	5,176	+118	流動負債	2,865	2,974	+109
棚卸資産	1,253	1,471	+218	社債及び借入金	688	897	+209
非流動資産	4,543	4,741	+198	非流動負債	2,774	2,407	▲367
有形固定資産	1,597	1,705	+107	社債及び借入金	2,172	1,731	▲441
無形資産	759	770	+11	資本	3,962	4,536	+573
のれん	956	1,033	+77	自己資本比率	41.1%	45.6%	+4.5pt
資産合計	9,600	9,916	+316	負債及び資本合計	9,600	9,916	+316

有利子負債: 2,628億円 (2017年3月末比▲232億円)

- 財政状態
- 自己資本は当期利益480億円の計上により、前期末から573億円増加し、4,536億円
- 自己資本比率は、借入金の返済等により有利子負債を232億円減少させた結果、前期末比で4.5ポイント上昇し、45.6%
- 棚卸資産が218億円増加しているが、これは主に為替による影響と期末の需要に向けた季節要因に加えて、医療事業においてBCP対応等の在庫を戦略的に積み増しているため

連結キャッシュフロー計算書

- FCF：ISM社*買収により87億円支出した一方、投資有価証券売却や土地建物売却などによる収入により、181億円を確保

(単位：億円)	第3四半期累計実績		
	2017年3月期	2018年3月期	増減
売上高	5,318	5,721	+403
営業利益	560	598	+38
営業利益率	10.5%	10.5%	Opt
営業キャッシュフロー	717	602	▲114
投資キャッシュフロー	▲460	▲422	+38
フリーキャッシュフロー	256	181	▲76
財務キャッシュフロー	▲244	▲362	▲118
現金及び現金同等物期末残高	1,668	1,867	+199
減価償却費	397	396	▲2
設備投資額	489	457	▲33

● キャッシュフローの状況

- 営業キャッシュフロー：医療事業を中心とした事業活動からの利益を中心に602億円
- 投資キャッシュフロー：Image Stream Medical社の買収に伴い87億円の支出があった一方、投資有価証券売却や海外での不動産売却の収入等があり、前年同期から38億円改善
- フリーキャッシュフロー：181億円のプラスを確保
- 財務キャッシュフロー：昨年9月に発行した社債や手元資金等で、有利子負債約550億円を返済

2018年3月期 通期業績見通し

通期見通し ①連結業績

- 売上高・営業利益・税引前利益のいずれも、従来の年間見通しに変更なし
- 当期利益は、米国税制改革に伴う法人所得税の減少を見込み、30億円上方修正

(単位：億円)	2018年3月期 11月8日公表見通し	2018年3月期 (最新見通し)	増減	前回見通し比	為替影響調整後 前回見通し比	2017年3月期
売上高	7,840	7,840	-	-	▲1%	7,406
売上総利益 (売上総利益率)	5,190 (66.2%)	5,200 (66.3%)	+10	0%	▲1%	4,785 (64.6%)
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	4,280 (54.6%)	4,300 (54.8%)	+20	0%	0%	3,977 (53.7%)
その他の収益および費用等	▲50	▲40	+10	-	-	▲96
営業利益 (営業利益率)	860 (11.0%)	860 (11.0%)	-	-	▲3%	712 (9.6%)
税引前利益 (税引前利益率)	790 (10.2%)	790 (10.2%)	-	-	-	625 (8.4%)
当期利益* (当期利益率)	600 (7.7%)	630 (8.0%)	+30	+5%	-	428 (5.8%)
EPS	175円	184円				
円/USD	111円	111円	-			
円/Euro	126円	128円	+2円(円安)			

2018年3月期年間配当
 期末配当28円を予定
 (変更なし)

16 2018/2/9 No data copy / No data transfer permitted

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

OLYMPUS

● 通期見通し

- 売上高、営業利益、税引前利益のいずれも、11月に公表した数値から変更なし
- 引き続き、医療事業が全社の業績を牽引する見通し
- 当期利益は、米国税制改革に伴い、法人所得税が約30億円減少する見通しとなっていることから、前回見通しを30億円上方修正
- 配当は、期末配当として28円を予定

通期見通し ②セグメント別業績

- 為替前提を一部円安に見直したことにより、医療事業の売上高を上方修正（実質では据え置き）
- 映像事業は、3Q実績をふまえて売上高、営業利益を下方修正

(単位：億円)		2018年3月期 11月公表見通し	2018年3月期 最新見通し	増減額	前回 見通し比	為替影響 調整後見通し比	2017年3月期 通期実績	前期比	為替影響 調整後前期比
医療	売上高	6,130	6,160	+30	0%	0%	5,704	+8%	+4%
	営業利益	1,300	1,300	-	-	▲2%	1,147	+13%	+5%
科学	売上高	970	970	-	-	▲1%	934	+4%	0%
	営業利益	60	60	-	-	▲4%	59	+1%	▲21%
映像	売上高	650	620	▲30	▲5%	▲5%	628	▲1%	▲5%
	営業利益	20	10	▲10	▲50%	▲56%	2	+553%	+66%
その他	売上高	90	90	-	-	0%	140	▲36%	▲37%
	営業利益	▲60	▲60	-	-	-	▲11	-	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-	-	-	-
	営業利益	▲460	▲450	+10	-	-	▲485	-	-
合計	売上高	7,840	7,840	-	-	▲1%	7,406	+6%	+2%
	営業利益	860	860	-	-	▲3%	712	+21%	+6%

17 2018/2/9 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- セグメント別の業績見通し
- 医療事業：足元の好調な業績およびユーロ等の為替前提を見直したことにより、売上高を30億円上方修正
- 医療事業の営業利益は、主力の消化器内視鏡の販売が、期末に向けてさらに拡大することで増益を牽引できることから、前回の見通しを据え置き
- 科学事業：第3四半期までの進捗を踏まえて、売上高、営業利益ともに前回見通しを据え置き
- 映像事業：足元の事業環境を慎重にみて、売上高を30億円、営業利益を10億円、下方修正。通期で営業黒字確保の見通しに変更なし
- その他事業：主に前期に発生した子会社売却による影響等により、約50億円の減収減益見通し

The image features a dark blue background with several bright, glowing blue and white light streaks that curve across the frame. In the center, the word "OLYMPUS" is written in a bold, white, sans-serif font. A thin yellow horizontal line is positioned directly beneath the text.

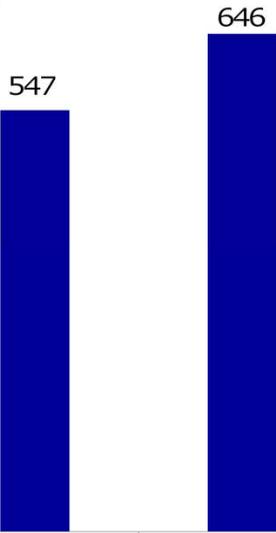
OLYMPUS

Appendix

【参考資料】研究開発費

研究開発費（前年同期比）

(億円)



2017年3月期
3Q累計

2018年3月期
3Q累計

研究開発費詳細

(単位：億円)	2017年3月期			2018年3月期 (*1)		
	3Q	3Q累計	通期	3Q	3Q累計	通期見通し
研究開発費 (対売上高比率)	172 (9.4%)	547 (10.3%)	792 (10.7%)	174 (8.6%)	646 (11.3%)	840 (10.7%)

ご参考

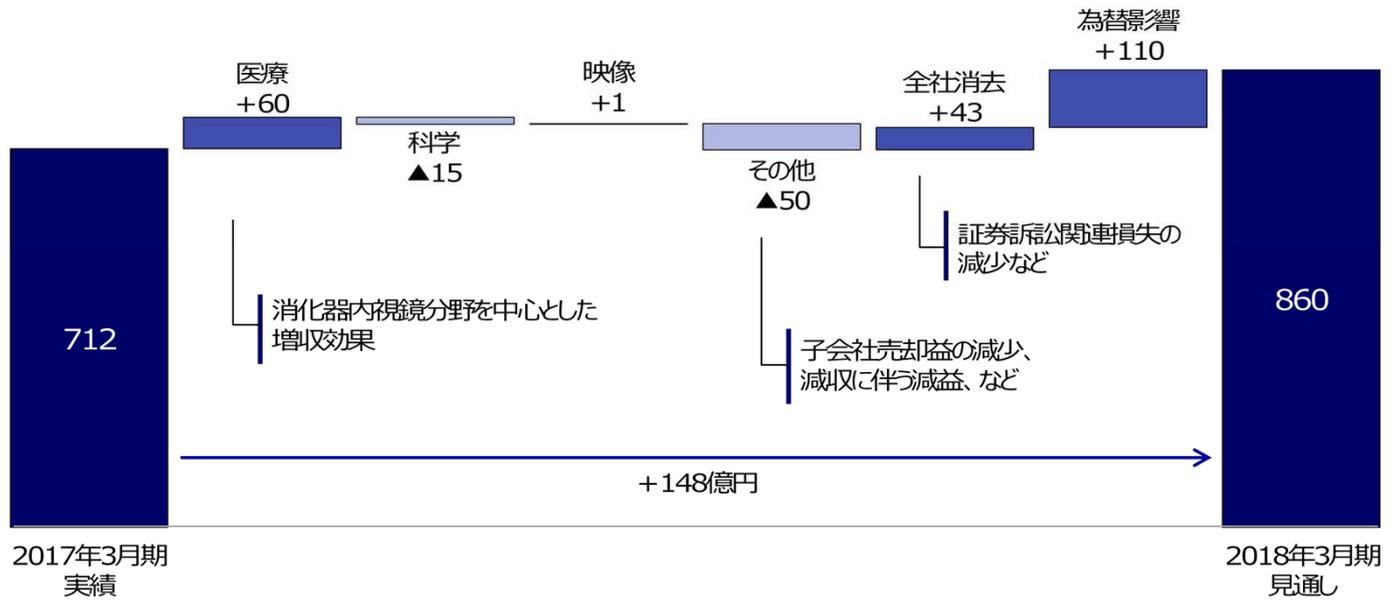
(単位：億円)	2017年3月期		2018年3月期	
	3Q	3Q累計	3Q	3Q累計
開発費資産化(*2)		15	22	77
償却費		13	17	46
開発資産残高	2016年12月末 293		2017年12月末 320	

(*1) 全子会社で親会社と同様の発生基準に統一したベース

(*2) 開発費資産化の数値は上段の研究開発費に含まれています

【参考資料】通期見通し 営業利益の増減分析（前年同期比）

通期実績（4-3月）



【参考資料・IFRS比較】 2017年3月期 第3四半期 ①連結業績

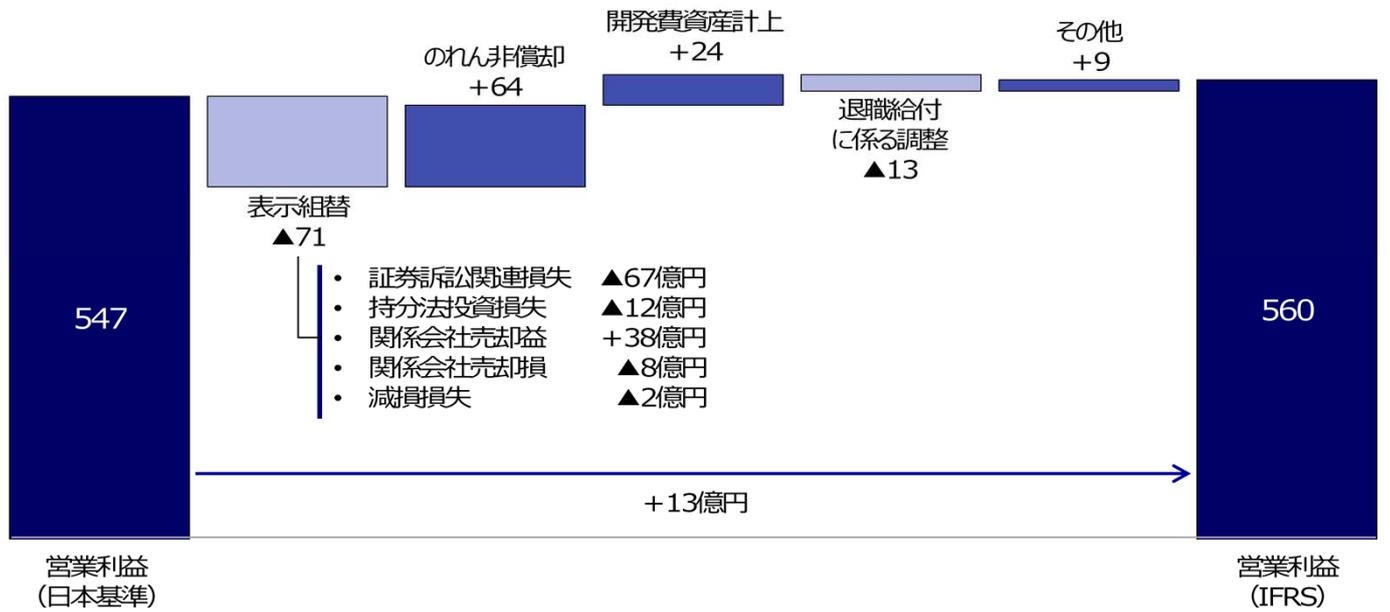
第3四半期累計実績 (4-12月)

(単位：億円)	第3四半期累計実績 (4-12月)		差異
	2017年3月期実績 (日本基準)	2017年3月期実績 (IFRS)	
売上高	5,335	5,318	▲17
営業利益	547	560	+12
税引前利益 [IFRS] 税金等調整前当期純利益 [日本基準]	410	489	+80
親会社の所有者に帰属する当期利益 [IFRS] 親会社株主に帰属する当期純利益 [日本基準]	411	395	▲16

OLYMPUS

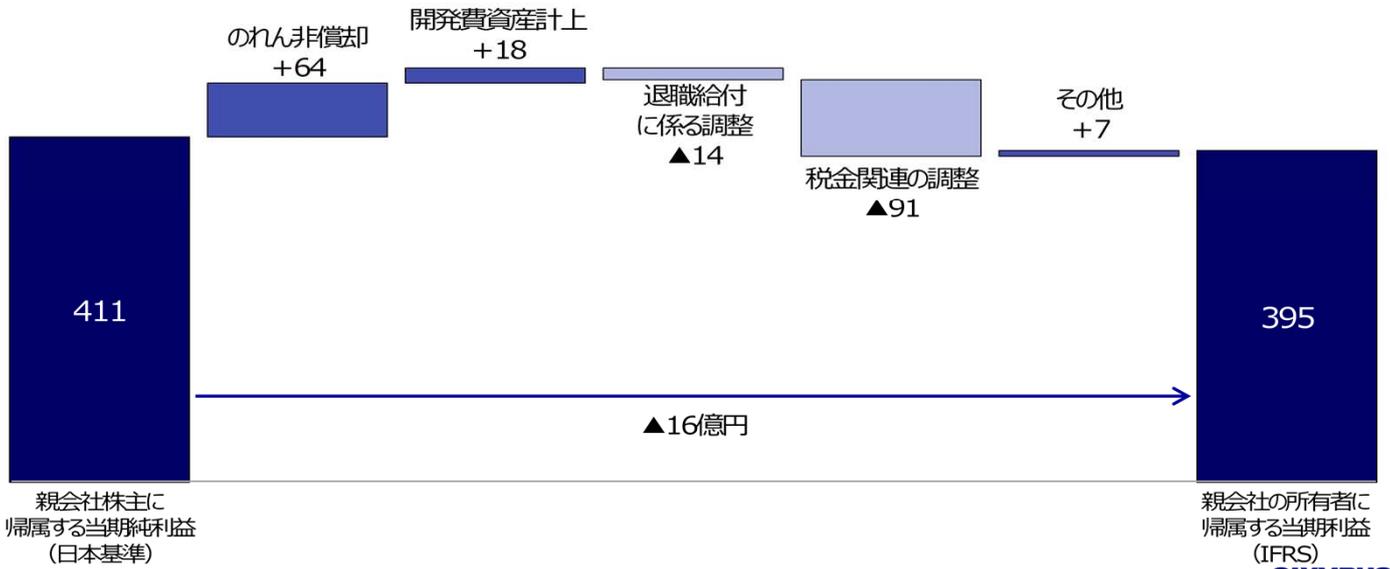
【参考資料・IFRS比較】 2017年3月期 第3四半期 ②営業利益増減分析

第3四半期累計実績 (4-12月)



【参考資料・IFRS比較】 2017年3月期 第3四半期 ③当期利益増減分析

第3四半期累計実績 (4-12月)



【参考資料・IFRS比較】2017年3月期 第3四半期 ④セグメント別業績

第3四半期累計実績 (4-12月)

(単位：億円)		2017年3月期実績 (日本基準)	2017年3月期実績 (IFRS)	差異
医療	売上高	4,103	4,103	0
	営業利益	828	880	+52
科学	売上高	633	635	+2
	営業利益	13	19	+6
映像	売上高	488	468	▲20
	営業利益	7	8	+1
その他	売上高	111	112	+1
	営業利益	▲29	7	+36
全社・消去	売上高	-	-	-
	営業利益	▲271	▲355	▲84
連結合計	売上高	5,335	5,318	▲17
	営業利益	547	560	+13

OLYMPUS

【参考資料・IFRS比較】2017年3月期 通期 ①連結業績

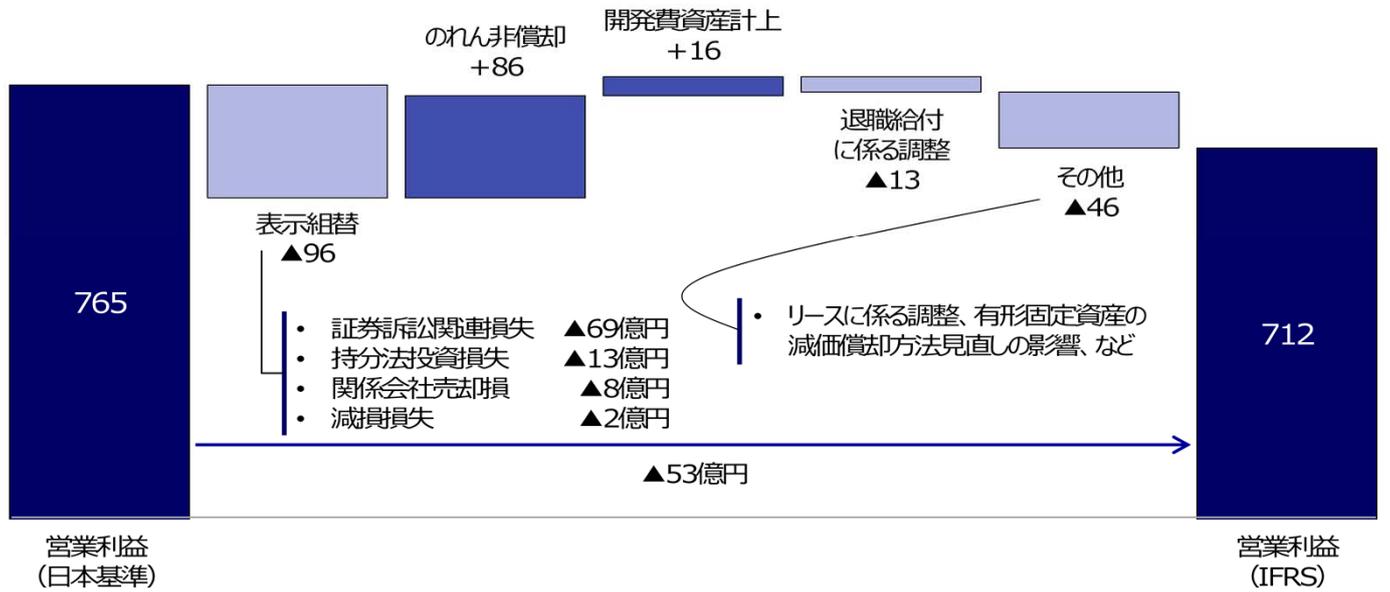
通期実績 (4-3月)

(単位：億円)	通期実績 (4-3月)		差異
	2017年3月期実績 (日本基準)	2017年3月期実績 (IFRS)	
売上高	7,481	7,406	▲75
営業利益	765	712	▲53
税引前利益 [IFRS] 税金等調整前当期純利益 [日本基準]	817	625	▲192
親会社の所有者に帰属する当期利益 [IFRS] 親会社株主に帰属する当期純利益 [日本基準]	782	428	▲354

OLYMPUS

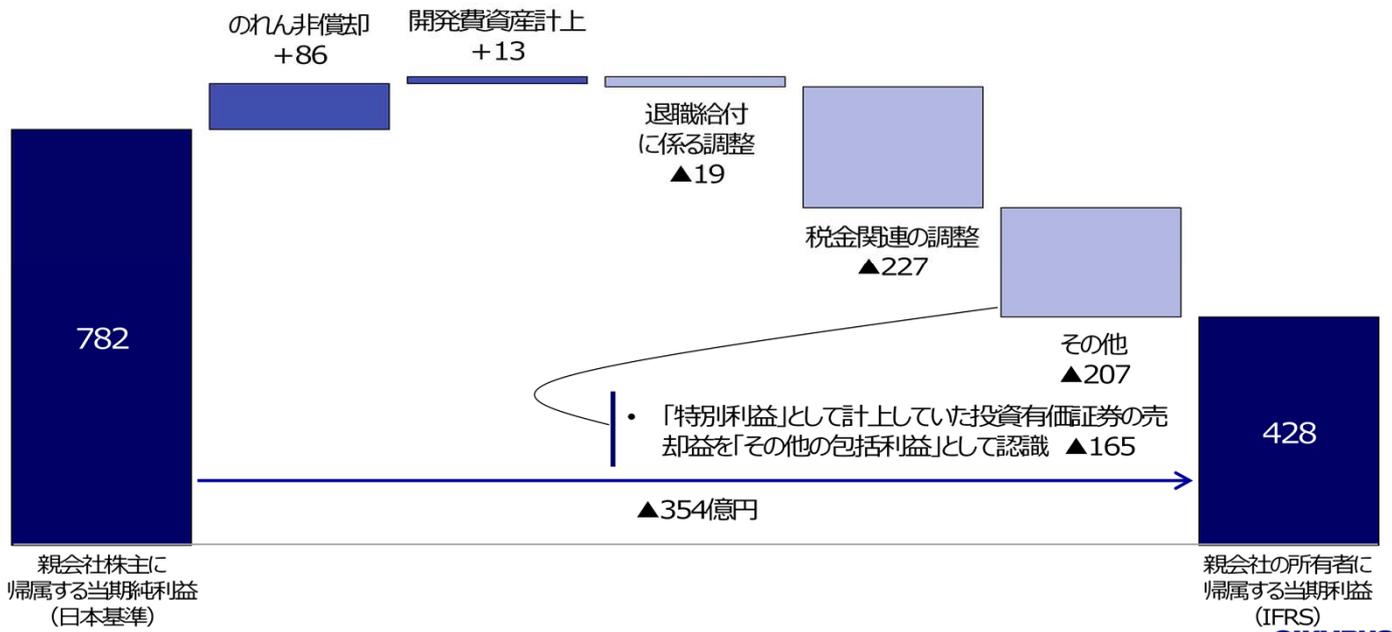
【参考資料・IFRS比較】 2017年3月期 通期 ②営業利益増減分析

通期実績 (4-3月)



【参考資料・IFRS比較】 2017年3月期 通期 ③当期利益増減分析

通期実績 (4-3月)



【参考資料・IFRS比較】2017年3月期 通期 ④セグメント別業績

(単位：億円)		通期実績 (4-3月)		差異
		2017年3月期実績 (日本基準)	2017年3月期実績 (IFRS)	
医療	売上高	5,753	5,704	▲49
	営業利益	1,155	1,147	▲8
科学	売上高	932	934	+2
	営業利益	53	59	+6
映像	売上高	656	628	▲28
	営業利益	5	2	▲3
その他	売上高	140	140	0
	営業利益	▲46	▲11	+35
全社・消去	売上高	-	-	-
	営業利益	▲402	▲485	▲83
連結合計	売上高	7,481	7,406	▲75
	営業利益	765	712	▲53

OLYMPUS